

警備・防災・ビル総合管理のカナケイ
技と知識を磨き、訓練を重ねて、現場に臨む

カナケイ株式会社（代表取締役社長）**深谷彰宏**



石油化学コンビナート工場の警備業務からスタート やがて防災業務もお任せいただけるように 地元・川崎を地盤に多くの取引先を獲得、躍進し続ける

創業半世紀超、 警備防災で存在感示す

当社カナケイは昭和47年、警備業界最大手に勤務していた20代の若手社員3名が独立し、京浜工業地帯を拠点に興した会社、神奈川企業警備にルーツを發します。当該社員たちの派遣先である大手石油会社の関係者から、「独立するなら応援する

よ！」と声をかけていただいたのが、そもその始まりだったと聞いています。

同39年には東京オリンピック、同45年には大阪万博があり、この2つのイベントを通じて、警備業の認知度が社会に浸透。また、警備業にクローズアップしたテレビドラマに大気が寄せられていたこともあり、業界への関心と興味が大いに高まっていた頃の出来事でした。

立ち上げられた会社の主要活動エリアは、多摩川が東京湾へと注ぎこむ河口に位置する浮島、ならびにその周辺。そこに立地する上場企業各社の工場から、堅実な仕事ぶりを評価され、次第に取引先を増やしていきます。

企業社会においては当時、本業への人材資源集約、ならびに付帯業務のアウトソーシング化という流れが

進行中。そうした時代背景も、当社の基盤づくりに幸いした部分があったのではないのでしょうか。

当初は警備業務に専念していたのですが、取引先からの要望もあり、やがて防災業務まで担うように。大きく広まった業務内容のあらましを、ご紹介しましょう（これらは同業他社との差異化にもつながっています）。

当社警備員たちは通常、工場の立哨業務や入門受け業務などに携わっていますが、いざ近隣で出火などの異常事態が発生した場合、大型免許や消防関係資格などを有する隊員が出動し、地域企業の間で共有する消防車を駆って、消火活動に当たります。公設の消防が到着するまでの間、自主的な消火活動に向き合うわけです。京浜臨海部一帯には、場所柄として危険物が多く存在します。火の手が回れば被害が広がりやすく、



地域全体に甚大な影響をもたらしかねません。その影響を最小限に食い止めるべく、努力をしているのが、私どもの警備防災への取り組みなのです。

農協職員から転身、 警備業の道を歩む

私・深谷彰宏は現在、当社カナケイの4代目代表を務めております。このポジションに就くまでの経緯は、次のとおりです。

大阪生まれ、東京育ち。実家が農家だったこともあり、東京農業大学へ



進学。卒業後、社会人としての出発点は、東京・多摩地方の農業協同組合（JA）でした。作付けの仕方などを農家さんへアドバイスする「営農指導」の道を目指していたのですが、都市化に伴う田畑減少の影響などもあつてか、なかなか道が開けてきません。

仕事に対するモチベーションの低下を自覚するなか、たまたま目にしたのが警備会社の求人広告でした。「生活安全産業」というキャッチフレーズの響きや、仕事内容の社会的意義に魅力を感じ、思い切つて警備の世界へ飛び込むことに。神奈川県



警備業協会に加盟する中堅警備会社に再就職します。年齢37歳にしての大きな、大きな転身でした。

同社には約10年間、在籍。最終的に代表取締役を務めさせてもらうことになりましたが、諸般の事情を考慮して辞することを決断。そんな折、神奈川県警協や川崎美化協会の活動を通じてお世話になっていた当社力ナケイの経営者の方から、お誘いが。「カナケイ50年、100年の歴史に向かつて、ぜひ力を貸してほしい!」。そんな口説き文句にも心を動かされ入社へと至ります。平成18年、47歳を迎えた年のことでした。

警備防災事業を深め、 周辺事業にも注力

カナケイ入社以降は、主に新規取引先開拓営業に携わってきました。得意とする石油化学コンビナート工場からの警備防災業務新規受託に加え、電機など一般工場からの警備業務受託、さらにはコンサートなどのイベントに伴う雑踏警備業務などにも挑戦。加えて、建築物の清掃・メンテナンスを主業務とするビル総合管理事業にも本格進出。いずれにも多く



の取引先を確保し、当社経営の安定化を実現しています。

代表取締役就任と前後して、平成24年には関東事業所（埼玉県鴻巣市）を開設。さらに同28年には東京支店（東京都千代田区）、同29年には浮島事業所（川崎市川崎区）、令和6年には茨城営業所（茨城県稲敷郡）と、立て続けに拠点拡充を図ってきました。各取引先の身近から、行き届いた技術サービスをお届けするように努め、より厚い信頼を獲得しています。

川崎市役所新庁舎や同市宮前区役所庁舎の警備業務をはじめ、川崎市市政100周年記念事業として開催される「全国都市緑化かわさきフェア」（令和6年秋、令和7年春の会場警備業務などにも、当社をお役立ていただいております。

人こそすべて—— 教育・研修に注力

私ども警備業界にも昨今、AI化の波が訪れています。しかしながら人、すなわち現場スタッフ一人ひとりの「質」こそが、取引先からのご信頼獲得の要である事実には、いささ

かの変わりもありません。平成23年には、本社近くに社員研修センターを開所し、教育・研修・訓練の場としてフル活用を図っています。

前述しましたように、警備と防災を兼ねた、警備防災こそが、私どもカナケイの強みであります。その技をいつそう磨き上げていくことこそが企業使命であると考え、取り組みを進めています。

たとえば消火の技を競う、総務省主催のコンテストが毎年、開かれています。カナケイは、浮島エリアに拠点を構える各企業と連携した「浮島共同防災協議会」として参加。令和3



年度「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」において見事、優秀賞受賞の栄に浴しました。防災への取り組み姿勢が、公にも認められたカタチになったのです。

経営の立場に立つ者として近年、人材がらみで頭を悩ませている事案があります。それは、若い人たちの採用が難しくなっていることです。これは警備業界共通の課題でもあるでしょう。

当社では待遇改善施策——具体的には昇給賞与休日増などを通じて、より魅力のある企業体制企業文化づくりを進め、若い人たちから目を向けてもらえるよう、努めています。カナケイの明日を切り開いてくれる人材に、大いに期待しています。



深谷彰宏 ふかや あきひろ

昭和34年生まれ。大阪府出身。中学生時代に東京へ移住。東京農工大学農学部卒業。農協職員、中堅警備会社社員・代表取締役を経て平成18年、カナケイへ移籍(47歳)。新規顧客開拓営業などを担当。同29年、代表取締役副社長。令和2年、代表取締役社長に就任。神奈川県警備業協会総務副委員長、同警協理事・川崎支部長など、準公職にも励む

設立 昭和47年
事業内容 警備防災、施設警備、交通誘導警備、雑踏警備、環境衛生管理、設備維持管理、マンション管理
所在地 〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町14-4 (尊昌ビル5F)
電話 044-544-6105
URL <http://www.kanakei.co.jp>
資本金 23,800千円
従業員数 280名